

超高速知能ネットワーク社会に向けた新しい

インタラクション・メディアの研究開発

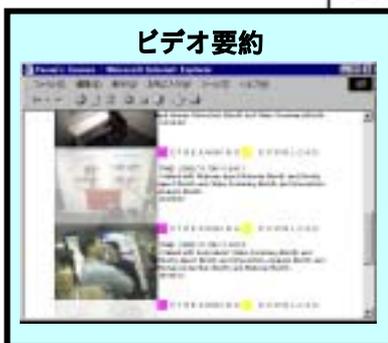
民間基盤技術研究促進制度平成13年度採択案件

受託者	(株)国際電気通信基礎技術研究所
研究開発期間	H14年1月～H18年3月(4年3ヶ月)
研究代表者:	萩田紀博 (株)国際電気通信基礎技術研究所 知能ロボティクス研究所 所長
概要	<p>人の体験に関する情報をWeb上で体験を共有する「体験共有コミュニケーション」可能なインタラクション・メディアを実現するため、各種技術の研究開発を行う。</p> <p>【サブテーマ】</p> <p>(1) 協調メディアの研究開発 協創パートナー(ロボット等)による体験観測技術 複数協創パートナー制御技術 インタラクション・コーパス構成法</p> <p>(2) 知育メディアの研究開発 知育のための感性・技能辞書の構築法 知育体験演出技術</p> <p>(3) 五感メディアの研究開発 体験における五感への再現提示の特定 五感情報の認識・理解・変換技術</p> <p>(4) 体験共有コミュニケーションの研究開発 個人認知モデルの研究 協調認知モデルの研究</p>

体験共有コミュニケーション

- ・「いつ、どこで、だれが、だれと、どんなインタラクションをしたか」を自動記録
- ・協創パートナー(人型・人形型ロボットなど)によるインタラクション演出
- ・インタラクションの重要度に応じたビデオ要約可能(例えば30分の体験を3分に)
- ・Webでだれでも体験共有。体感的に提示可能な知育メディア

ビデオ要約



体験観測



